

日本学術会議主催公開シンポジウム
「災害に対するレジリエンスの向上に向けて」
2014.9.28. 帝京大学板橋キャンパス

災害からのレジリエンス —被災者側の視点—

- 仁平義明（心理学）
白鷗大学教育学部
nihei@fc.hakuoh.ac.jp

リジリエンス Resilience

- 【日本語表記】

ほかに レジリエンス, レズィリエンス, レジリアンス

- 「re」: 発音 [ri]

- 【発音の近さ】 と 【日本語表記の慣用】を考えると

リジリエンス, リジリエンシーという表記がよい

レジリエンスとレジリエンシー

(*McGloin & Widom, 2001*)

- 物理用語としては、「弾力性」「柔軟性」「復元力」
- 虐待や貧困など、強い持続的なストレスがあったのにもかかわらず、そこから回復し精神的に健康に(成長)する子ども/人/家族などの研究

- **レジリエンス Resilience**

(心の)回復

うまくいった適応の状態 (現象・過程)

- **レジリエンシー Resiliency**

(心の)回復力

特性 (能力)

レジリエンス研究：2つの流れ

心理学・精神医学・教育学

● 虐待や貧困など強い持続的なストレスがあっても精神的に健康に成長する子どもの心の回復研究

● 1982 Werner & Smith

ハワイカウアイ島大規模長期追跡研究
(1955生まれの子どもたち 698人
32年間追跡)

● 1990年代以降 研究急増

PsycINFO検索

Resilience/Resiliency

現在=15,618件

都市/コミュニティ研究

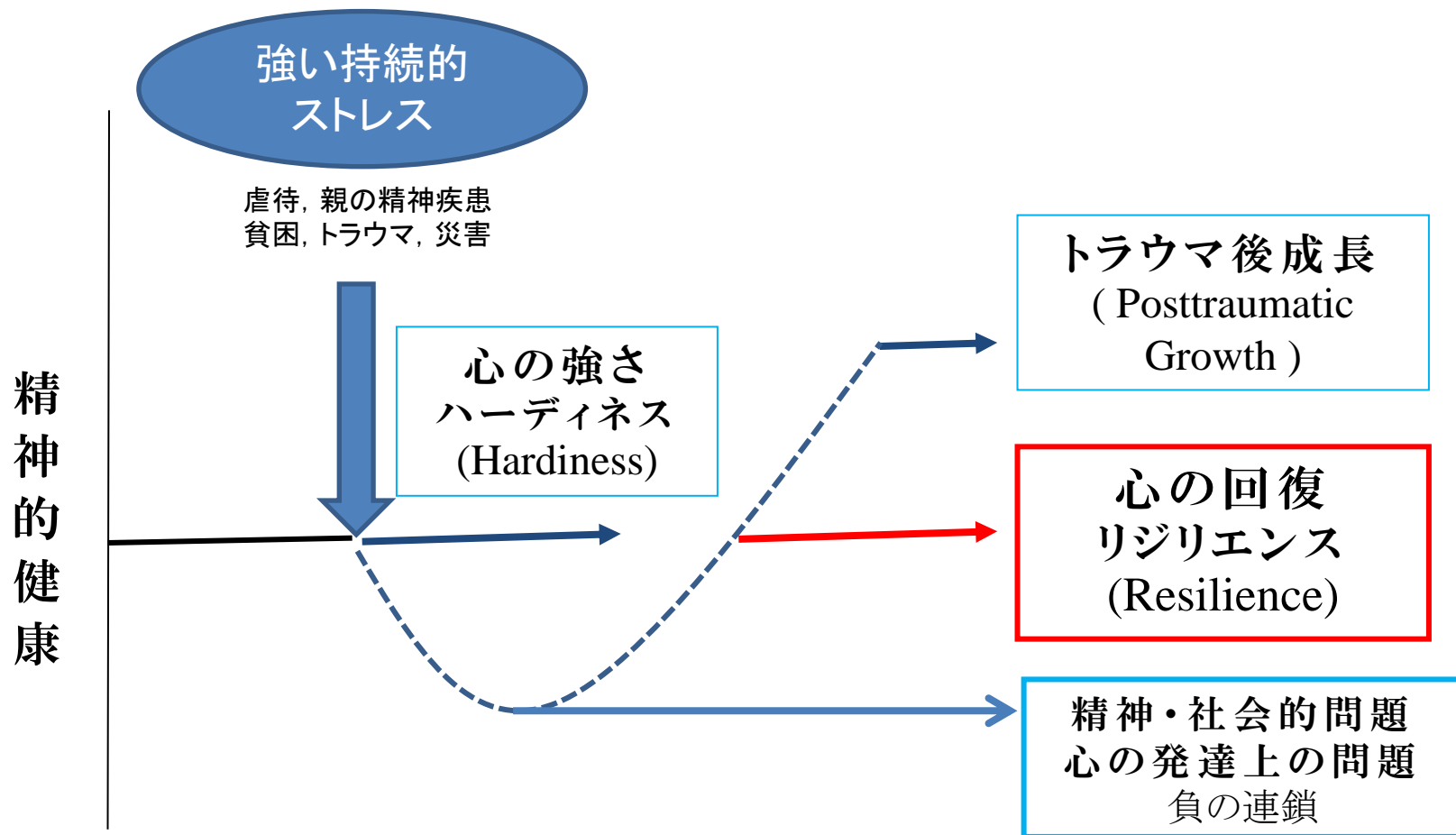
● 災害からの復興研究

● Ovid検索

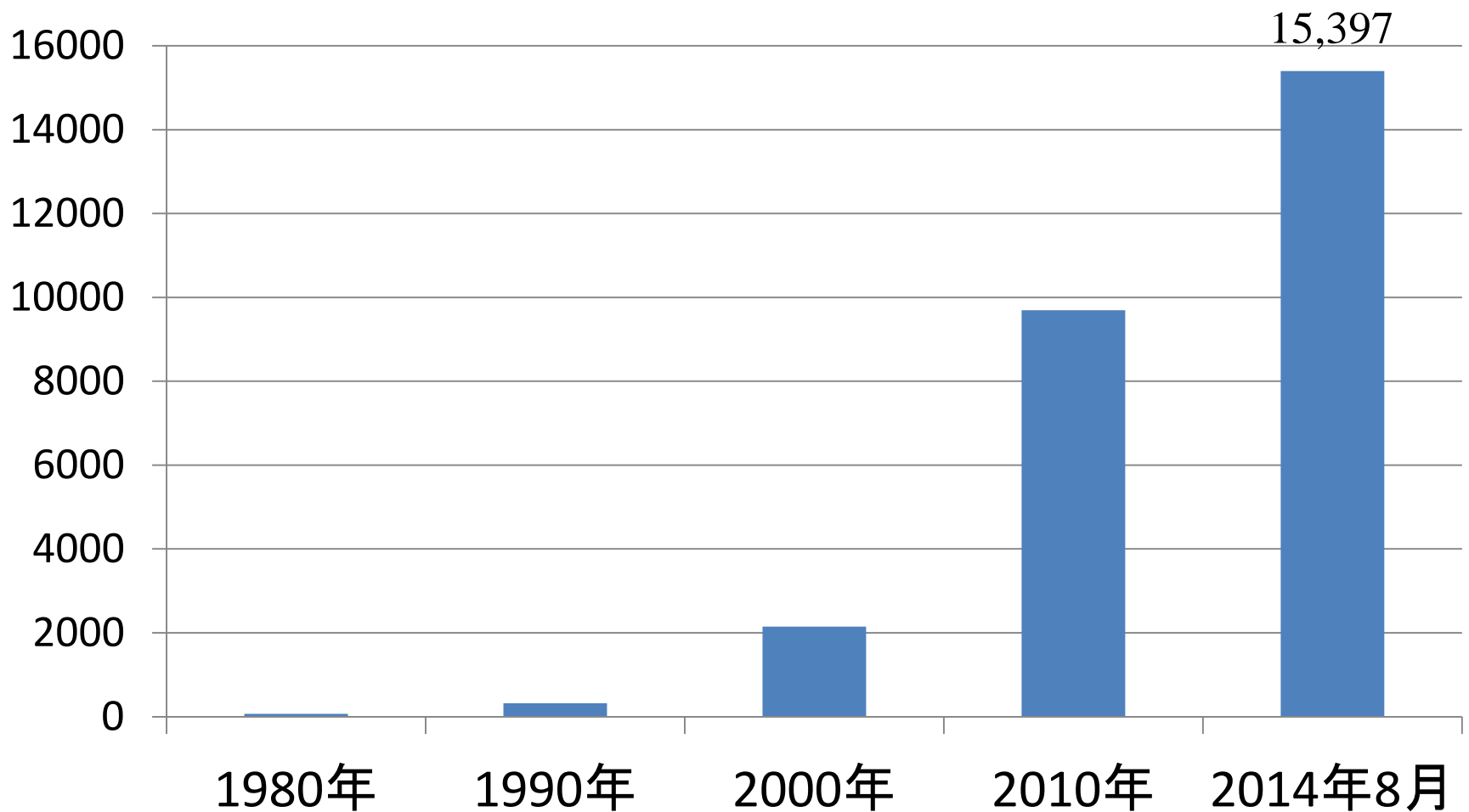
Resilience/Resiliency ×

Disaster

現在=1,598件



「リジリエンス(心の回復)」という考え方
— 模式図 —



resilience / resiliency

「心の回復」の国際的文献の累積数
(国際的心理学文献データベースPsycINFOの検索ヒット数)

レジリエンスがみられた個人の特徴(要素)

仁平 2002 (Wagnild & Young, 1993; Mrazek & Mrazek, 1987; O'Sullivan, 1991他)

- ①**自己信頼**：自分を信頼して、あきらめないで自分が努力をすれば、問題は解決し成功できると信じる
- ②**未来志向・楽観主義**：つらい時期があっても、未来は必ず今より良くなると思っている
- ③**自尊心**：自分にはこの世に存在する意味があり、人生には何か意味があると思ひ、自分を大事にする
- ④**自己受容**：少々の欠点や失敗があることをみとめながらも、自分を愛せる
- ⑤**肯定的人間観**：人間というものは本質的には良いものだと思う
- ⑥**他者の信頼と利用**：自分を見守ってくれる人は必ずいると信じ、必要なときには人の助言や助けを求めることができる
- ⑦**平静さ**：困難な状況や危機にあっても事態をある程度客観的にみられる
- ⑧**情報収集**：困難な状況を解決するために必要な情報を求める
- ⑨**リスクテキング**：必要なときには、リスクを冒すことができる
- ⑩**実存的孤独**：自分の人生は、自分独自のもので、自分で立ち向かう必要もあることを知っている

地域のレジリエンスの条件：個人からのアナロジー

仁平 2004 「自然災害とコミュニティに関する心理学的研究の動向－地域の防災レジリエンスを高める－」
「地域防災ゼミ」（東北大学災害制御研究センター）

①自己信頼＜自地域信頼＞

地域の能力を信じる・地域の能力を示す実績（普段から満足度の高い行政・サービス・満足度チェック）

②未来志向・楽観主義

万一の場合の復興計画・予測・希望を必ずいつの時点でも示す方策（地域の“希望のストーリー”）

③自尊心＜自地域尊重・有意味性＞

地域の存在意義、地域的アイデンティティへ形成

④自己受容＜自地域受容＞

地域に多少の問題や欠点を感じても地域を全体として評価

⑤肯定的人間観＜肯定的地域観＞

自治体や地域は、基本的に住民に貢献する存在であることを住民が納得できる行政

⑥他者の信頼と利用＜他地域の信頼と利用＞

他の地域の支援への信頼・連携（そのために自地域から他地域への支援システムの確立も）

⑦平静さ＜平静さ＞

災害の最中も対応に追われないで冷静な判断のみを担当する人員（部門）を用意

⑧情報収集

与えられる情報だけでなく、地域で計画準備した情報システム（地域の“情報収集分析室”）

⑨リスクテイク

ときに地域で責任を持つ独自の決定をする決意・制度

⑩実存的孤独＜実存的独立＞

住民を救う最終責任を負うのは最終的に地域なのだという意識・体制・宣言

本日の話の趣旨

- 地域のレジリエンスにとって重要な
＜他地域の信頼と利用＞
に関連する「社会関係資本」(Social Capital)の要素のうち
「**信頼**」が大震災以後の日本でどのように**変化**したと
考えるべきか
- 変化について
「被災地域—近県—遠隔地域」の受け取り方のちがいを
- 何が「受け取り方のちがいを」生んだか
—とくに「**風評被害**」の影響について

社会関係資本 (Social Capital)

(Pierre Bourdieu, 1985; Portes, 1998)

● 社会が持つ資本

経済資本・文化資本・社会関係資本

● “社会関係資本”(人間関係資本)

社会の中に築かれた豊かな人間関係

社会を成り立たせる基盤 (イントラ・ストラクチャ: 仁平)

● 社会関係資本の3つの要素 (Paldam, 2002)

① 信頼 (trust)

② 協力の喚起されやすさ (ease of cooperation)

③ ネットワーク (network)

探索的な調査ー背景・目的

- 東日本大震災によって日本が喪失するリスクがあるものの一つ
 - ・これまで長い時間をかけて蓄積してきた “社会関係資本” (社会の中にある人と人のつながり, とくに信頼)
- 探索的な調査
 - ・大震災・原子力発電所事故が日本の “社会関係資本” にどのような影響を与えたか

2つの主な結果

(1) “般化被害”としての風評被害

- 風評被害で対象の回避には一定の傾向

(2) “社会関係資本”の喪失のリスク

- 風評被害も、社会関係資本の喪失の一因
- この点について被災地と遠隔地では、逆の感じ方

探索的調査

(2012年9月＝1年半経過後)

(1) 対象者：3つの地域の居住者

- ① 被災3県（岩手，宮城，福島県）
- ② 隣県（栃木，茨城県）
- ③ “遠隔地”（神奈川県，東京都）

(2) 内容

- ① 震災による“社会関係資本”の変化の感じ方（理由）
- ② 農産物・水産物・乳製品・衣料品・観光等の回避（いわゆる風評被害）
- ③ 信頼回復の条件

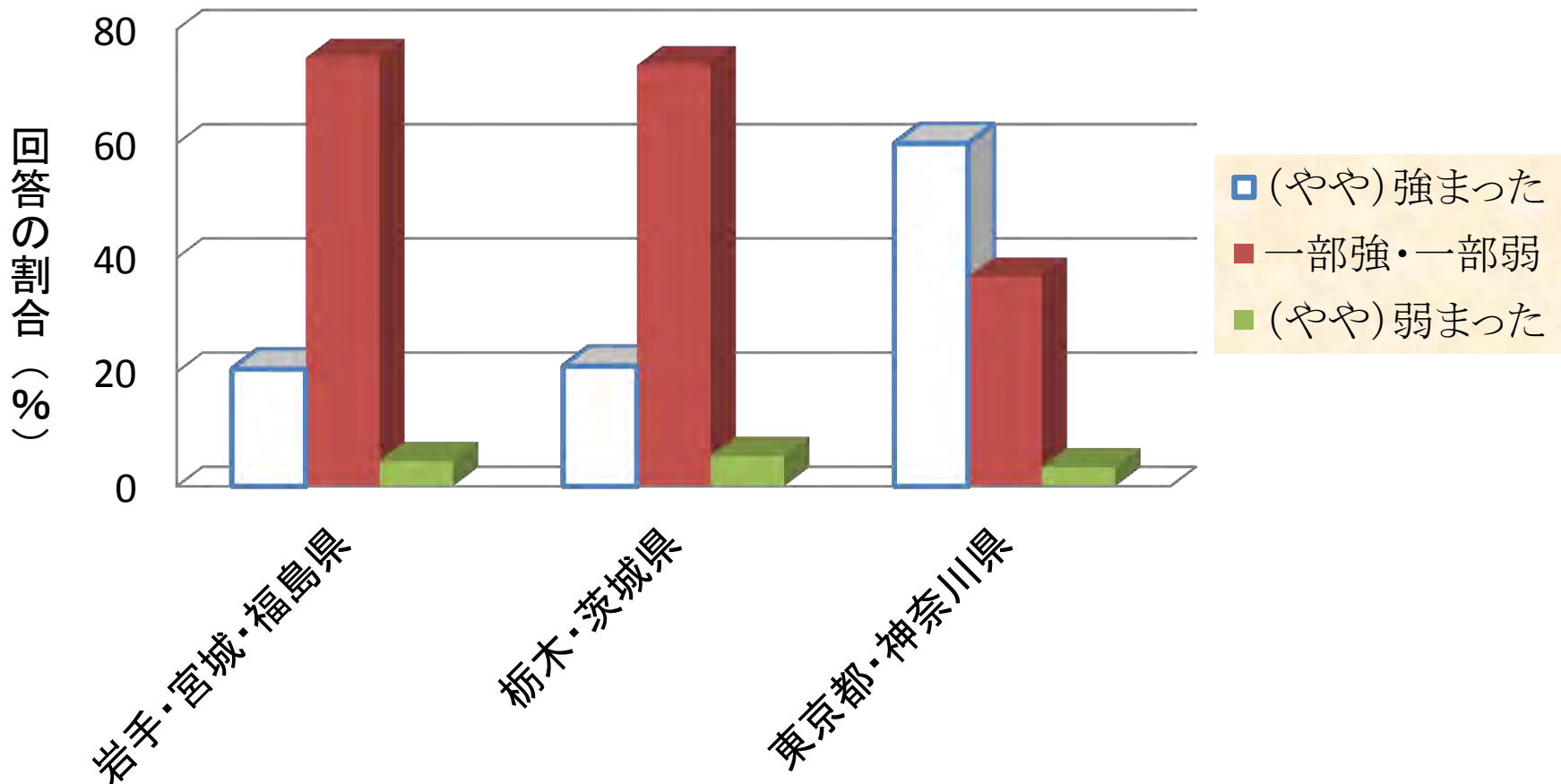
「社会関係資本」の変化の感じ方

Q 「被災地の人々」と「そうではない地方の人々」との「信頼関係や心の結びつき」は、震災前よりも

1. 全体として強まったと感じる
2. やや強まったと感じる
3. 一部では強まったかもしれないが、
一部では弱まったと感じる
4. やや弱まったと感じる
5. 全体として弱まったと感じる

「社会関係資本」の変化の感じ方：地域間の乖離

Q 「被災地の人々」と「そうではない地方の人々」との
「信頼関係や心の結びつき」は、震災前よりも



“一部では強まったかもしれないが、一部では弱まった”と感じる「理由」の例1 (被災3県)

3. 食品に対する差別がひどく「福島」という言葉に異常に反応し不買につながっている現状。
仮設住宅の不具合さを目の当たりに見て心が痛む。
後手後手の施策に腹ただしい限り。

(福島県主婦)

3. 津波で浸水した家の掃除などをボランティアの方々に手伝ってもらった。本当にありがたかった。そのような人もいれば、被災地ツアーに来て、「家の基礎しかないな」と笑い声をあげている人もいた。そこは友人の家のあった場所だった。関係のない人にはその程度なのか、と思った。

(岩手県学生)

“一部では強まったかもしれないが、一部では弱まった”と感じる「理由」の例2(被災3県)

3. 親戚や知り合い(親しい人)の方々からは、電話やメール等で何度も連絡を頂き絆が深まったように感じるが、それ以外の方々(全員ではないが...)については、ガレキ処理の受け入れに関する報道等で**反対運動**をしている映像を見たりすると、絆が弱まった気がする。

(福島県)

3. 全ての人がそうだとは思わないが被害のない地域の人々から見て被災地は遠方でもあり他人事であると感じていると感じる。(震災瓦礫の受け入れ拒否、作物の風評被害、観光の敬遠等)

(岩手県 農業)

“全体として強まったと感じる”

“やや強まったと感じる”「理由」の例(遠隔地)

1. 被害を受けていない地方の人々が震災地に行き、炊き出しなどボランティアに参加することによって信頼関係や心の結びつきが生まれると思う

(神奈川県 学生)

2. ボランティア活動等がされている報道をよく耳にする

(神奈川県 公務員)

2. あらゆるメディアで繰り返し報道されることにより、被災地への思いが強くなったと思うから。知らない土地とそこに住む人たちへの感情移入がされるようになったと感じる

(神奈川県 公務員)

1. “全体として強まったと感じる”

2. “やや強まったと感じる”「理由」(被災地)

1. 自分自身が旅行に行った時など自宅家族に被害がなかったのに旅館の方などにとても良くしてもらえた。声かけなども多くされることが多いと感じた。

(宮城県 看護師)

2. 震災にあい都市ガスがなかなか使えないとき静岡ガスの方が開栓してくださいました。また(よそで)出身地を話すと震災のとき大丈夫でしたかと心配されることもありました

(宮城県 看護師)

2. 他県から来ての被害の片づけその他もろもろの支援見ていてありがたいです。

(岩手県 会社員)

“社会関係資本”（人と人の信頼・つながり） についての感じ方：調査から

● 被災地と遠隔地の感じ方の乖離

☆ 被災地（被災3県）

- 実際の個人対個人経験のフィードバックがある
感情の裏打ちがある信念の変化

☆ 遠隔地（東京・神奈川）

- 報道など間接的経験によるやや表層的变化
- ポジティビティ・バイアスがより強められる

“一部では強まったかもしれないが、一部では弱まった”と感じる「理由」の例2(被災3県)

3. 全ての人々がそうだとは思わないが被害のない地域の人々から見て被災地は遠方でもあり他人事であると感じていると感じる。

(震災瓦礫の受け入れ拒否、作物の風評被害、観光の敬遠等)

(岩手県 農業)

●被災3県と隣県2県の対象者のうち56人が、地域間の信頼感がネガティブな方向に変化した理由を書いていた。

そのうち35人(62.5%)は、放射性物質汚染のないはずの
がれき受け入れ拒否も含めて「般化」反応とみられる「風評被害」をその理由にあげていた..

風評被害—「般化」を強調した定義：仁平（2014）

●いわゆる風評被害とは、
社会的に影響の大きい有害な事象が起こったという直接・間接
の情報に人が接したとき、実態としての脅威がないのに主に**般
化**によって本来脅威とならない対象にも広く回避行動が起こること。
その結果、回避される側に経済的・社会的損害などなんらか
の被害が及ぶこと

*「般化」(generalization) : ある対象に対して「恐怖」などの反応が新たに結合されると、
本来の対象そのものだけでなくそれと関連したもの、類似したものにも広く学習された
反応が生じるようになること

“般化被害”としての風評被害

● 般化（はんか generalization）

- 恐怖や不安など学習されたものの対象が，そのもの以外のものにも広がること

● 般化勾配（はんかこうばい generalization gradient）

- 類似度，関連度によって，般化の起こりやすさが異なってくる
- 類似度，関連度が強いものほど，反応が起こりやすい

風評被害でみられる「般化」の形態

- カテゴリー内般化

(例：野菜—かき菜≡ホウレンソウ≡・・・)

- カテゴリー間般化

(例) 食品—野菜≡魚介・・・)

- 空間的般化

(基準値超えが報道された市町村≡フクシマ≡東北≡日本)

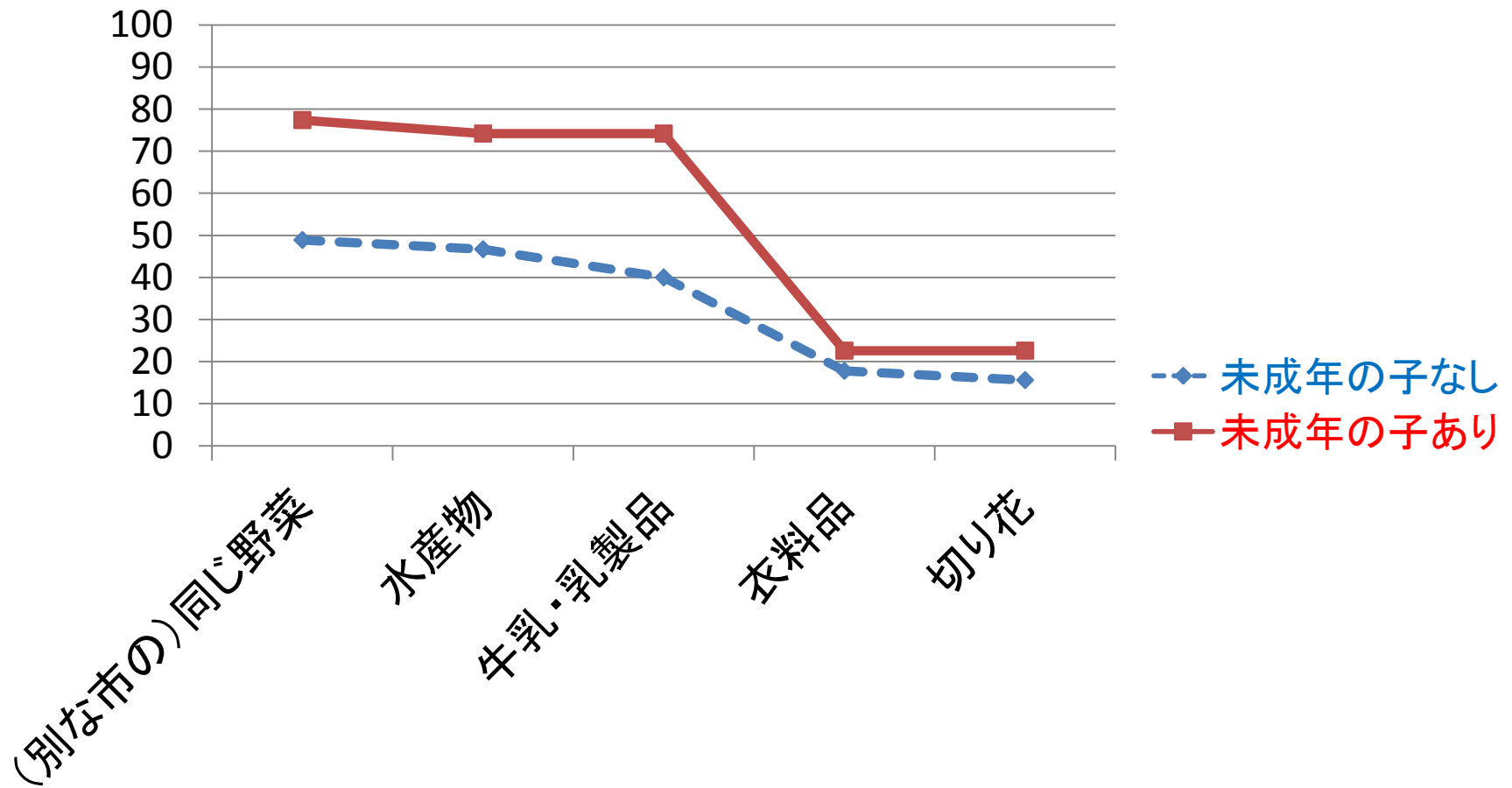
- 災害間般化

(地震≡津波≡原子力発電所事故)

- 人への般化

(放射性物質≡“福島の人”，・・・)

「同じ県産」の安全だとされた「別な市の野菜」や 他の産品を買おうと “思わない+迷う”割合(%)



社会関係資本のうち「地域間の信頼」をどう考えるか

●【信頼についての受け取り方のちがい】

- ・被災地から比較的遠方（東京・神奈川）の住民：“「被害を受けた地方の人々」と、「そうではない地方の人々」との「信頼関係や心の結びつき」は震災前よりも”，ポジティブな方向に変化したと感じる傾向があった。
- ・被災三県，その隣県二県の住民： どちらかといえばネガティブな方向に変化したと感じる傾向がみられた。

●【根拠となる理由のちがい】

- ・遠隔地は，ボランティアについての報道などの「間接経験」に基づくことが多かった。
- ・被災地側は具体的な「直接経験」が理由になっていた。被災地側では，そのボランティアの軽率な言動や支援の減少が不信を生む原因にもなった。

●【社会関係資本の喪失のリスク】

- ・この乖離が双方に知らされないと，地域間の関係には齟齬が生じるようになり，相互信頼という社会関係資本が喪失するリスクがあるだろう。
- ・そのためにも，公の手による大規模で精緻な調査が行われ，結果が国民に知らされなければならないと考えられる。

●【調査の限界】

- ・今後どのような調査が行われるべきか方向づけをするための探索的な限られた対象者数の調査。
- ・確実な結論を出すためには，今後より精緻な手続きによる大規模な調査が必要。